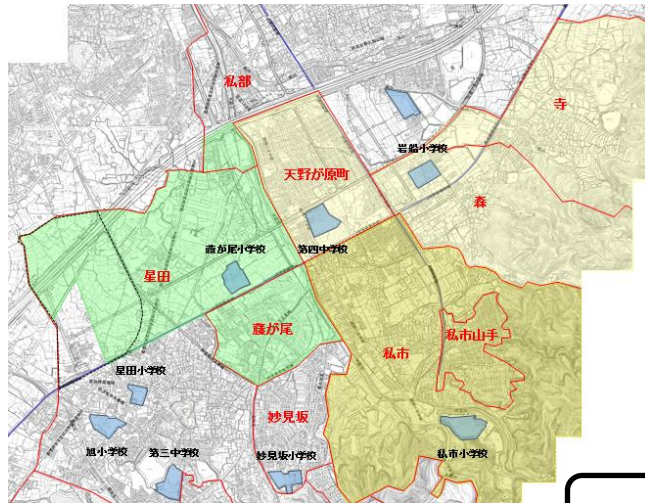


# 第四中学校区の適正配置案

# 第四中学校区の適正配置案 (1)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (1)

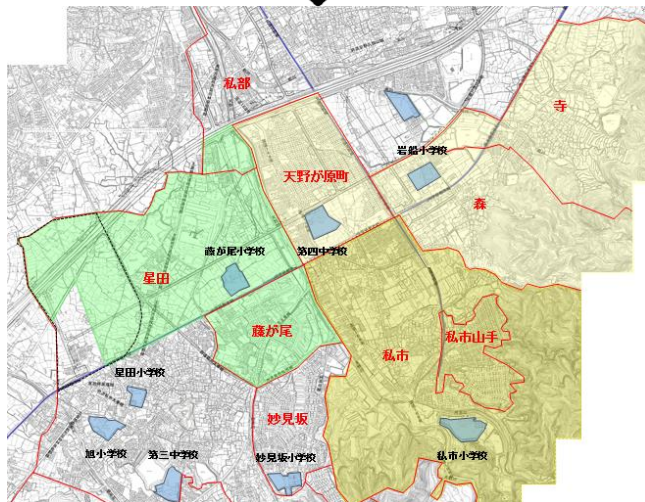
現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積: 20,444㎡)

メリット

- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

### ～第四中学校区の課題～

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

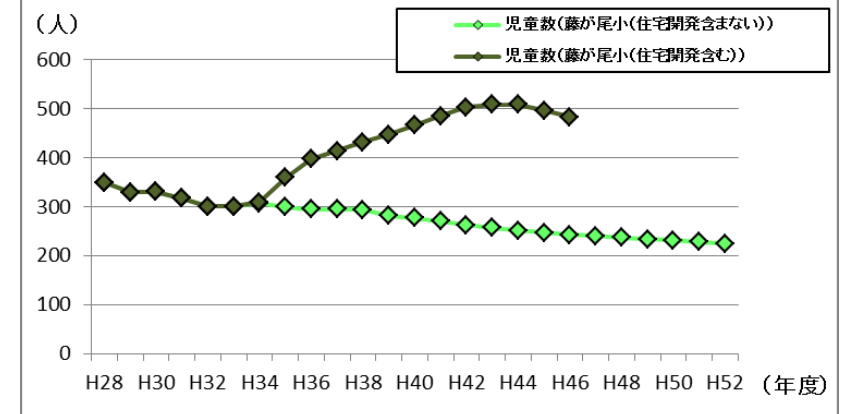
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の課題は解消する見込み

### 藤が尾小学校の児童数



### 学校統合案(1)

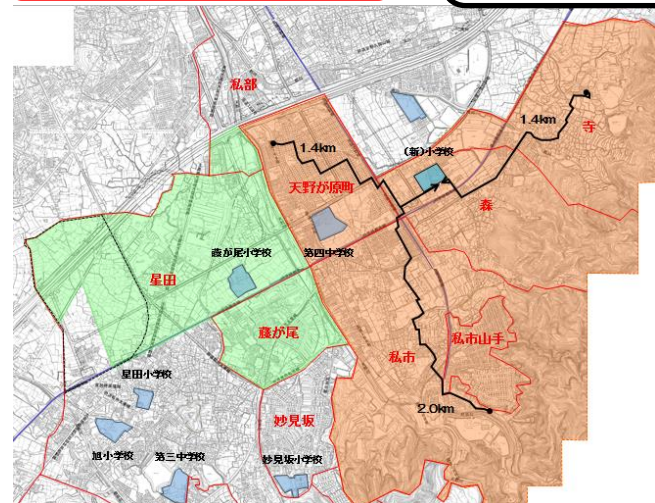
岩小・私小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)



(学校数 3) (岩船小学校敷地面積: 17,556㎡)

### 学校統合案(2)

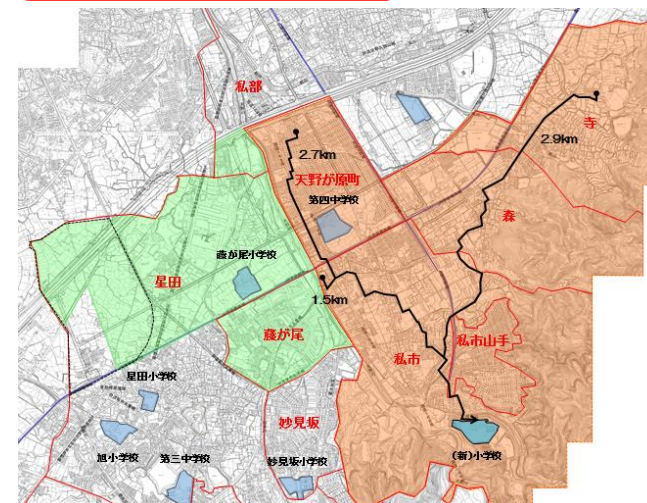
岩小・私小を統合  
私小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.9km)

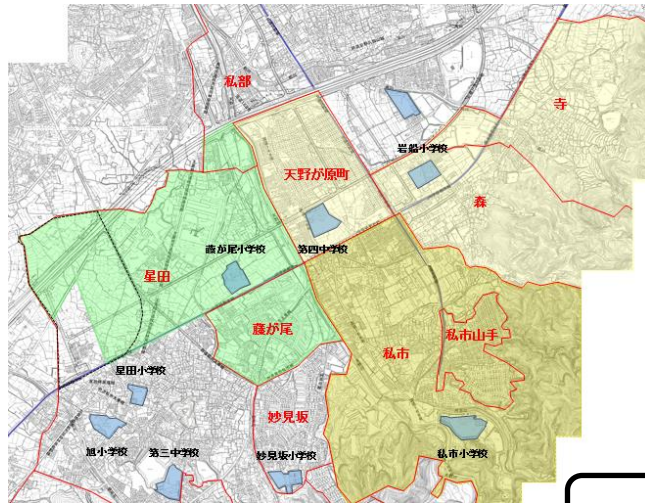


(学校数 3) (私市小学校敷地面積: 52,783㎡  
うち27,425㎡は実験実習地)

# 第四中学校区の適正配置案 (2)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (2)

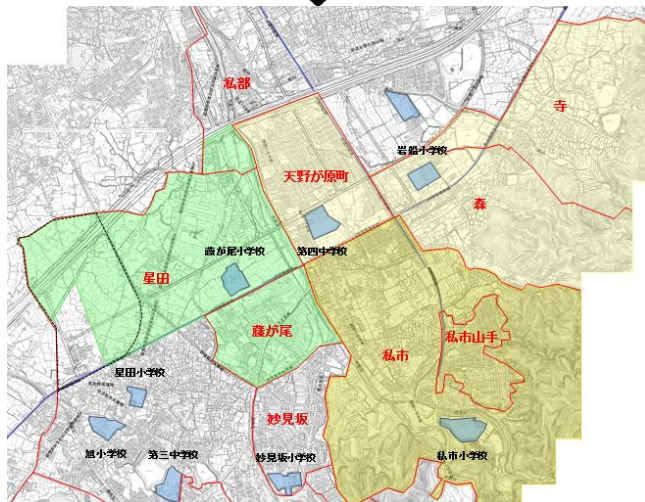
現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積: 20,444㎡)

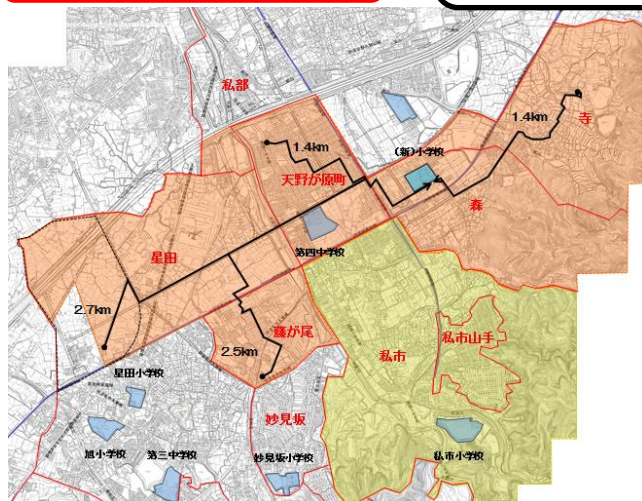
### メリット

- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

### 学校統合案(3)

岩小・藤小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合



(学校数 3) (岩船小学校敷地面積: 17,556㎡)

### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.7km)
- 将来、一時的に(新)小学校で適正規模を上回る見込みである。

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

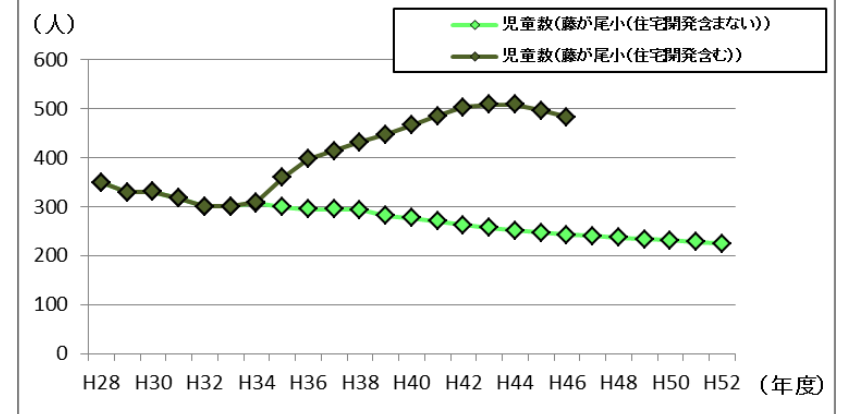
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の課題は解消する見込み

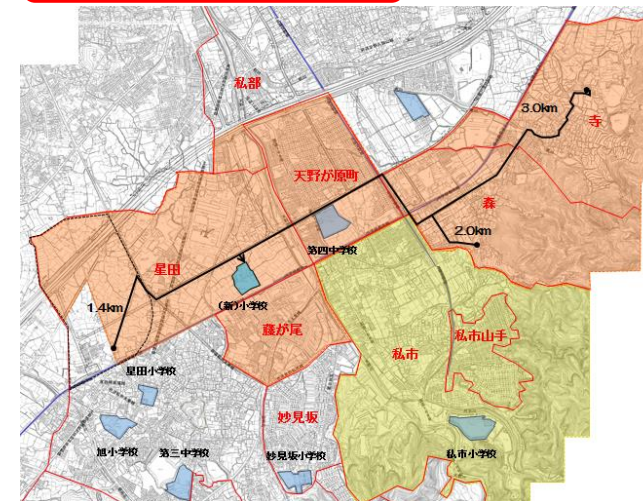
### 藤が尾小学校の児童数



### 岩小・藤小を統合

藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

### 学校統合案(4)



(学校数 3) (藤が尾小学校敷地面積: 20,444㎡)

### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

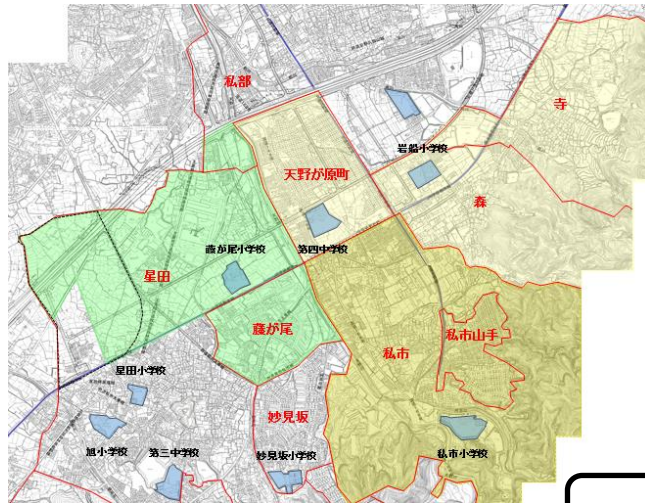
### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- 将来、一時的に(新)小学校で適正規模を上回る見込みである。

# 第四中学校区の適正配置案 (3)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (3)

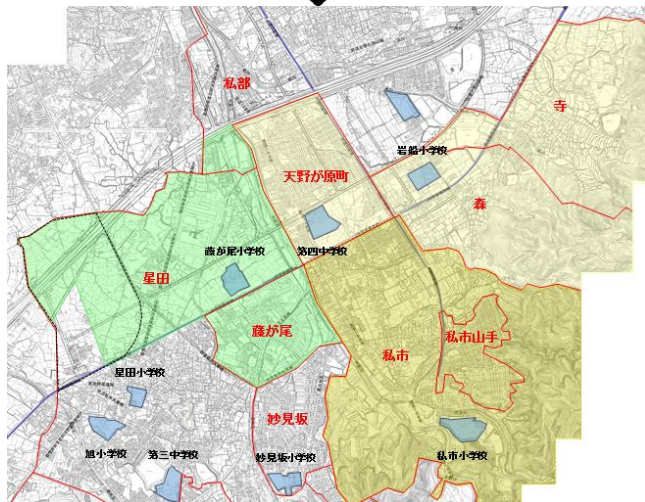
現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



メリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

### ～第四中学校区の課題～

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

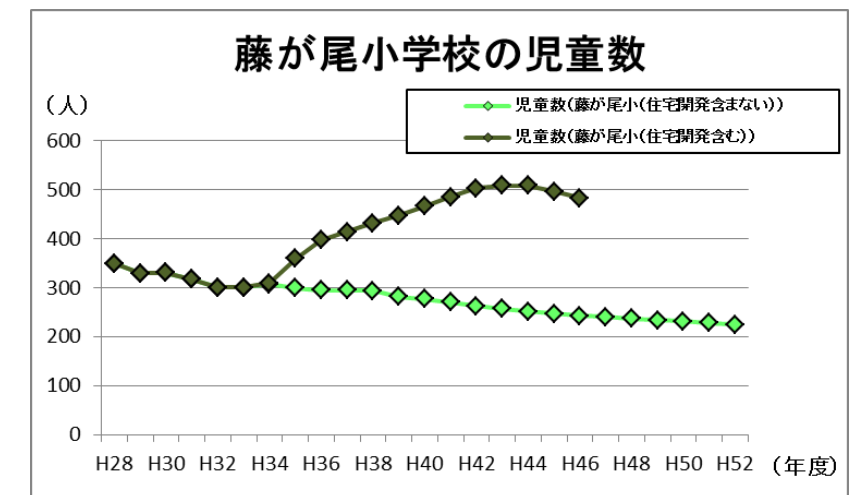
藤が尾小学校

~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**



(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

### 学校統合案(5)

岩小・藤小・私小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- ・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.7km)
- ・(新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

(学校数 2) (岩船小学校敷地面積：17,556㎡)

### 学校統合案(6)

岩小・藤小・私小を統合  
藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

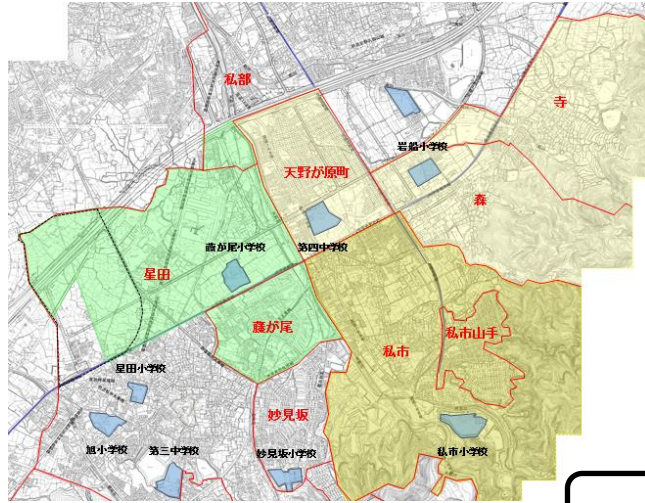
- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- ・(新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

(学校数 2) (藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

# 第四中学校区の適正配置案（4）

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区（4）

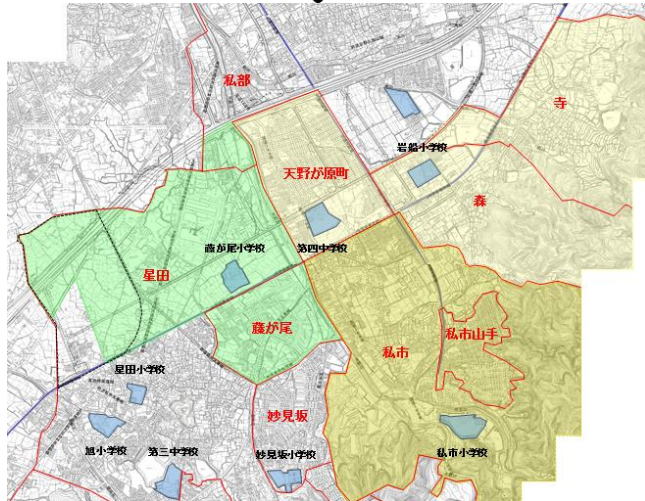
現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北（黒破線内緑色の区域）では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

メリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

### ～第四中学校区の課題～

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

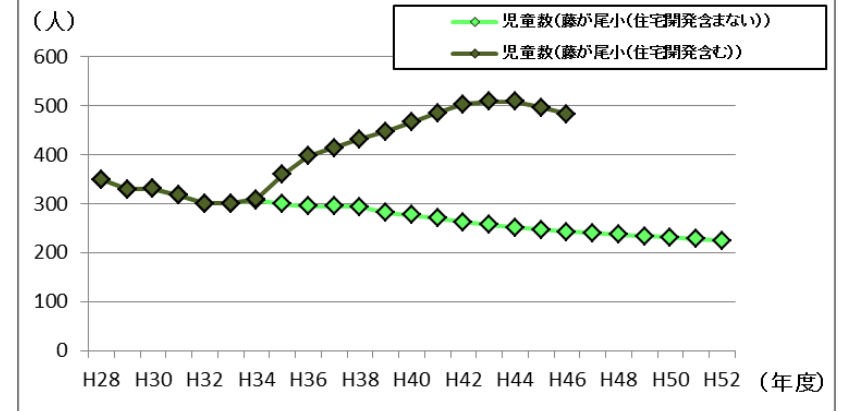
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**

### 藤が尾小学校の児童数



### 学校統合案(7)

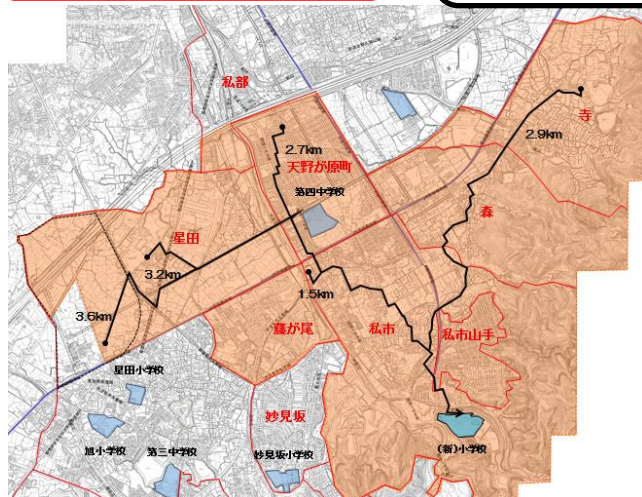
岩小・藤小・私小を統合  
私小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

- ・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- ・私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.6km)
- ・(新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

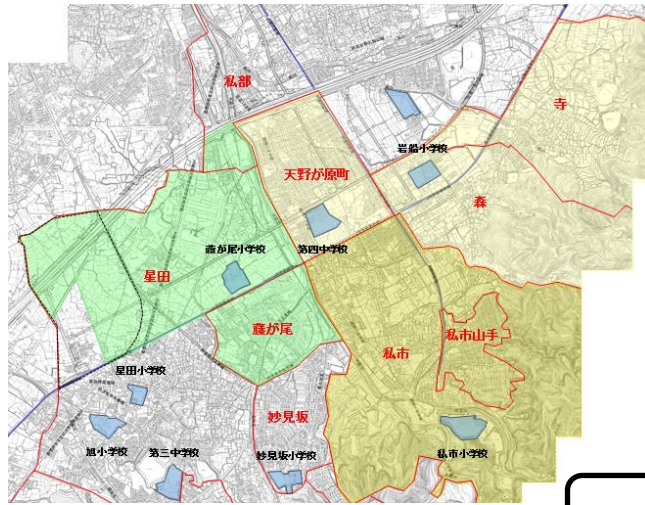


(学校数 2) (私市小学校敷地面積：52,783㎡  
うち27,425㎡は実験実習地)

# 第四中学校区の適正配置案 (5)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (5)

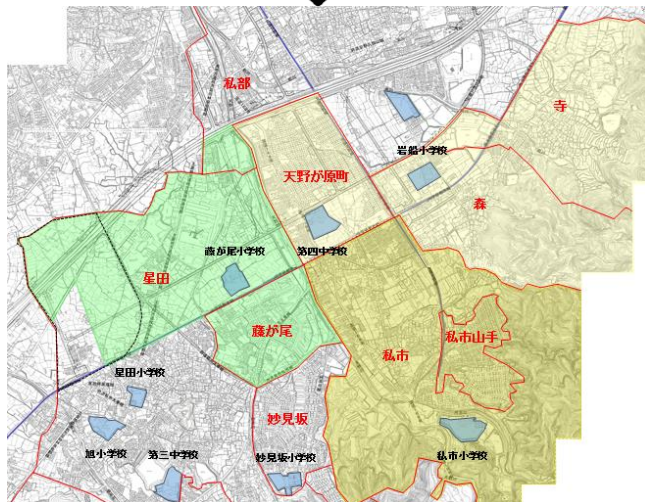
現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

### メリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

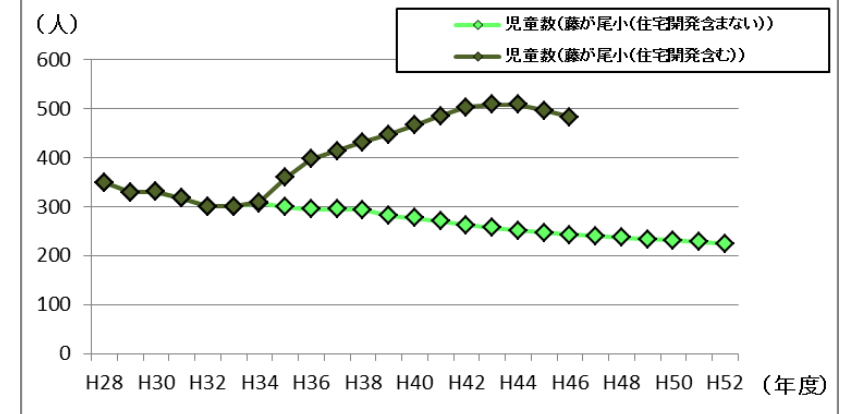
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

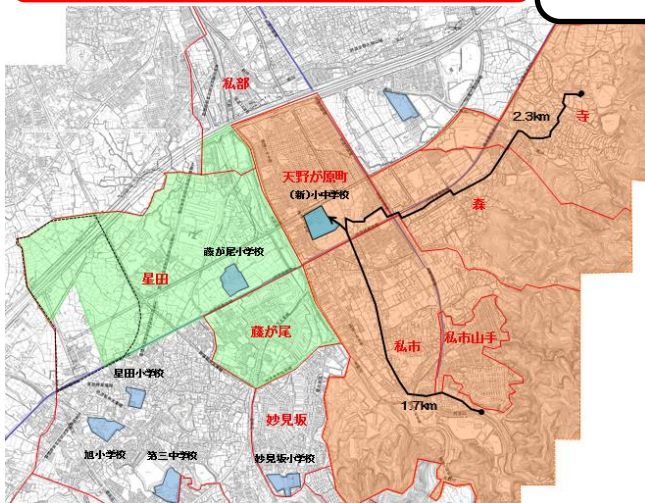
星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**

### 藤が尾小学校の児童数



### 小中学校統合案(1)

岩小・私小・四中を統合  
四中敷地に新しい小中学校を設置した場合



(学校数 2) (第四中学校敷地面積：20,472㎡)

### メリット

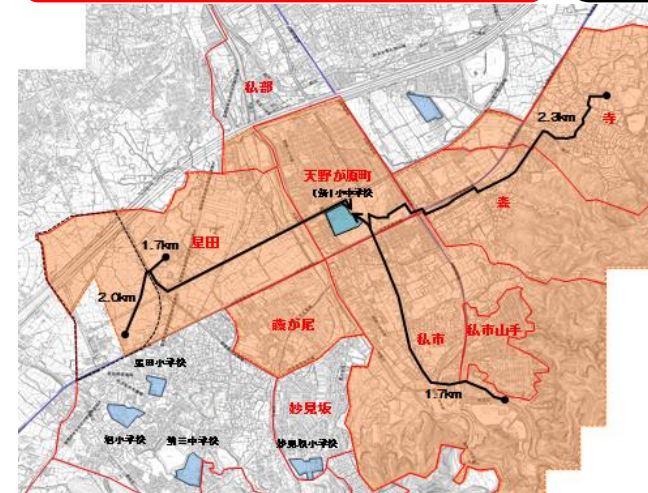
・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.3km)
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

### 小中学校統合案(2)

岩小・藤小・私小・四中を統合  
四中敷地に新しい小中学校を設置した場合



(学校数 1) (第四中学校敷地面積：20,472㎡)

### メリット

- ・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- ・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

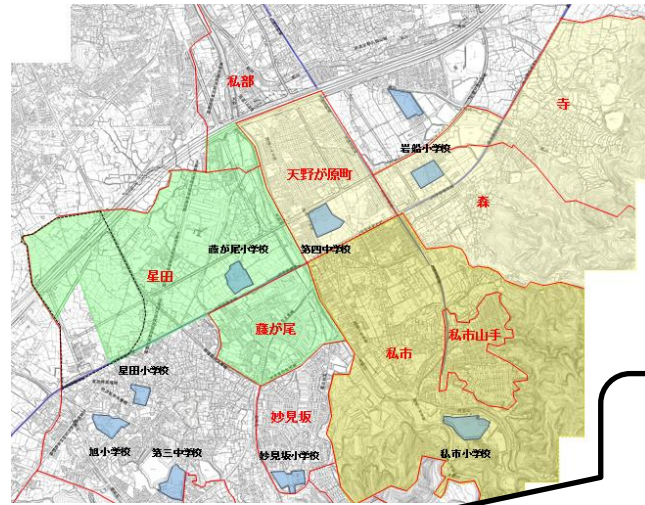
### デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.3km)
- ・(新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

# 第四中学校区の適正配置案（6）

## ◆ 星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区（1）

現況校区図（学校数 4）



星田駅北（黒破線内の区域）では、戸建住宅350戸、共同住宅190戸の合計**540戸**程度の住宅開発が予定されている。

- 星田北7丁目を校区変更（星小校区⇒藤小校区）
- 藤が尾小学校の増床が必要

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

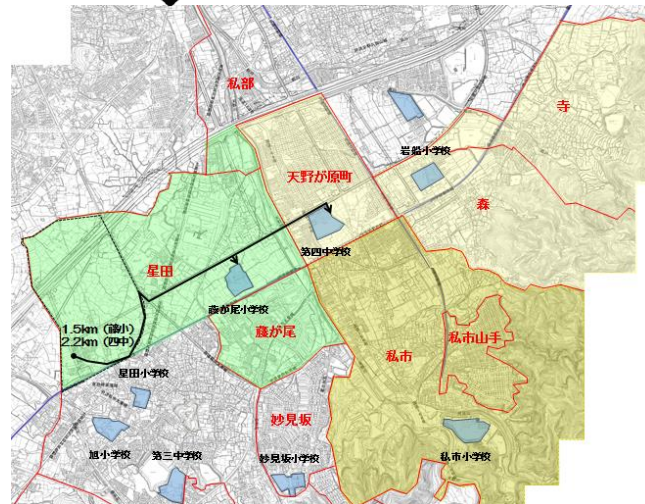
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**

（学校数 4）



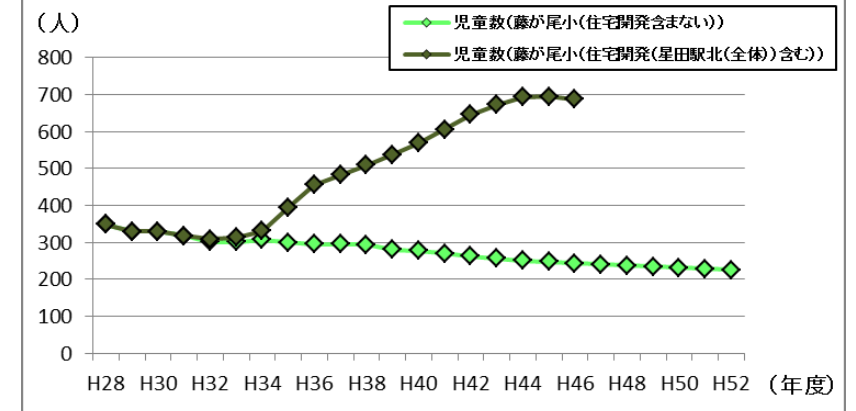
#### メリット

- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 中学校区をまったく校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- 将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る学校規模となるおそれがある。

### 藤が尾小学校の児童数



（藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡）

### 学校統合案(8)

岩小・私小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

（学校数 3）（岩船小学校敷地面積：17,556㎡）

岩小・私小を統合  
私小敷地に新しい小学校を設置した場合

### 学校統合案(9)

#### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

#### デメリット

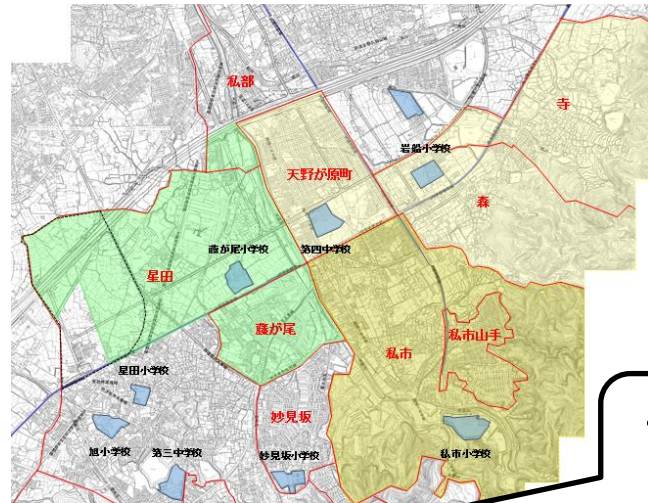
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）

（学校数 3）（私市小学校敷地面積：52,783㎡  
うち27,425㎡は実験実習地）

# 第四中学校区の適正配置案 (7)

## ◆ 星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (2)

現況校区図 (学校数 4)



星田駅北 (黒破線内の区域) では、戸建住宅350戸、共同住宅190戸の合計**540戸**程度の住宅開発が予定されている。

- 星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- 藤が尾小学校の増床が必要

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

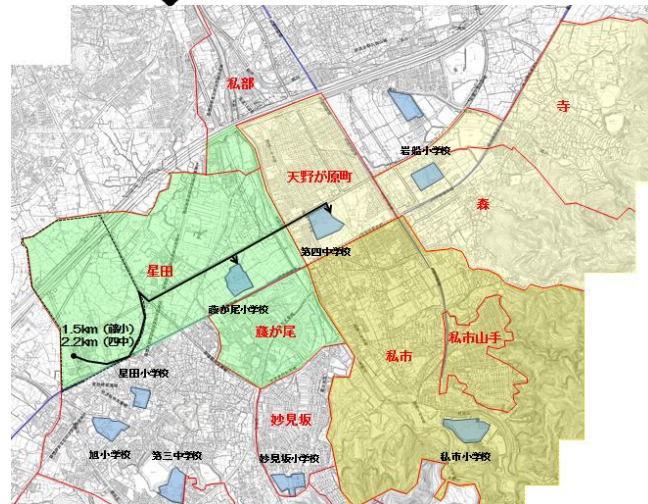
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**

(学校数 4)

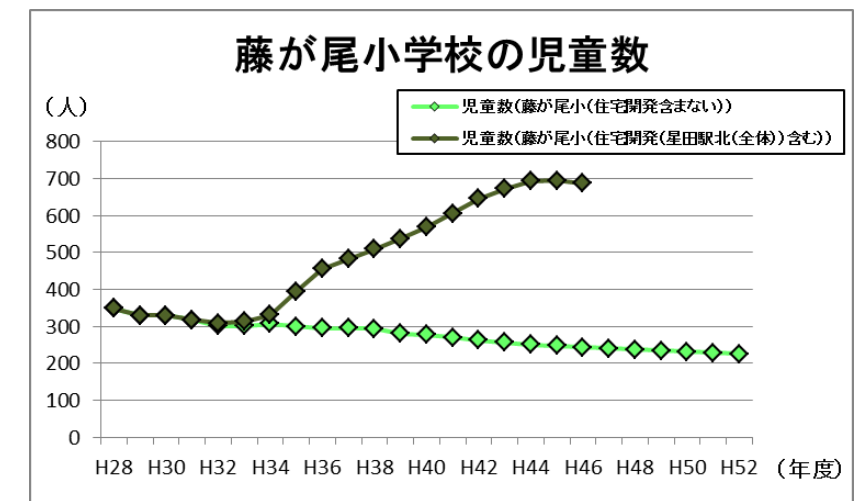


#### メリット

- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 中学校区をまったく校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- 将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る学校規模となるおそれがある。



(藤が尾小学校敷地面積: 20,444㎡)

### 学校統合案(10)

岩小・藤小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

(学校数 3) (岩船小学校敷地面積: 17,556㎡)

岩小・藤小を統合  
藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

### 学校統合案(11)

#### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

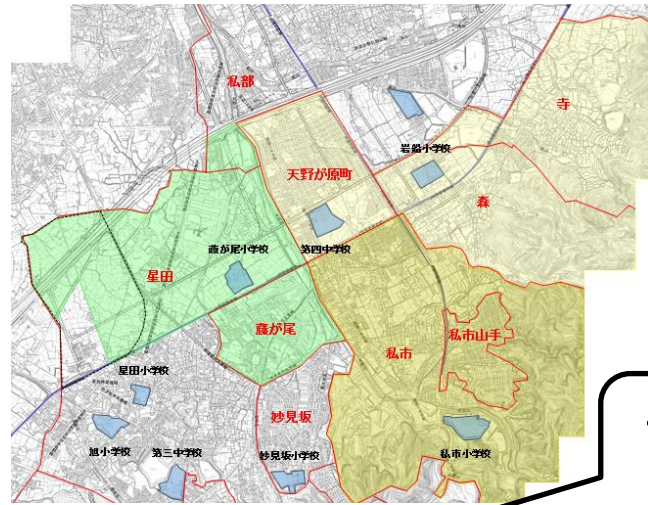
(学校数 3) (藤が尾小学校敷地面積: 20,444㎡)



# 第四中学校区の適正配置案 (8)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (3)

現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

- 星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- 藤が尾小学校の増床が必要

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

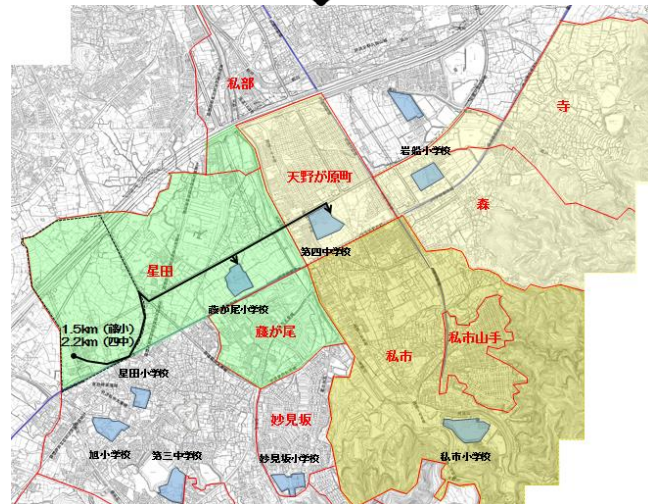
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**

(学校数 4)

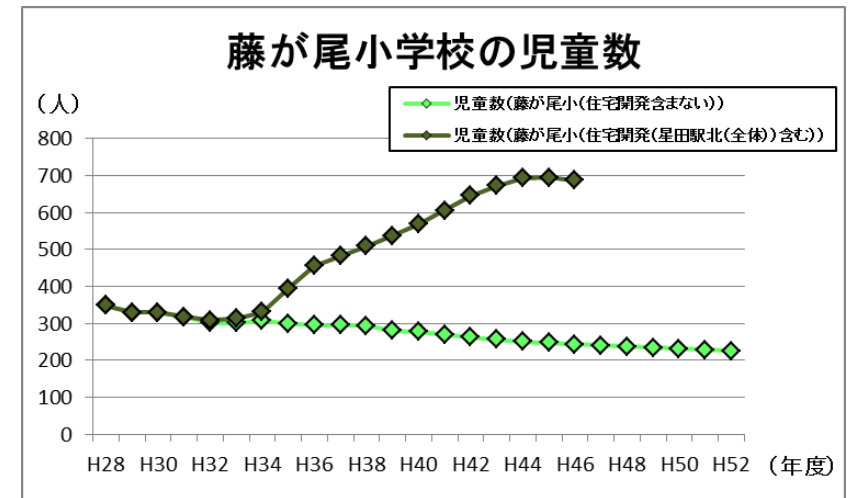


### メリット

- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

- 中学校区をまったく校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- 将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る学校規模となるおそれがある。



(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

### 学校統合案(12)

岩小・藤小・私小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

(学校数 2) (岩船小学校敷地面積：17,556㎡)

### 学校統合案(13)

岩小・藤小・私小を統合  
藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

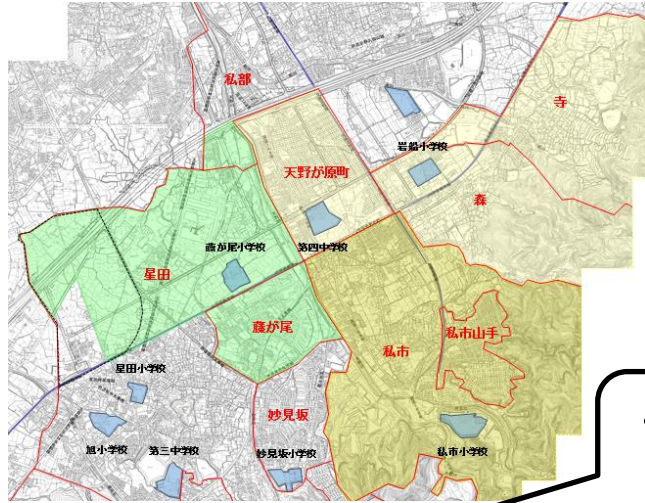
- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

(学校数 2) (藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

# 第四中学校区の適正配置案 (9)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (4)

現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

- 星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- 藤が尾小学校の増床が必要

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

~~将来的に小規模化する見込みである~~

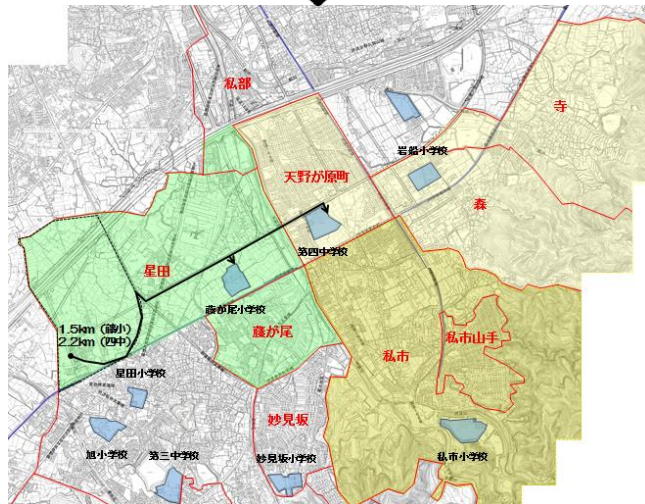
※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**



(学校数 4)

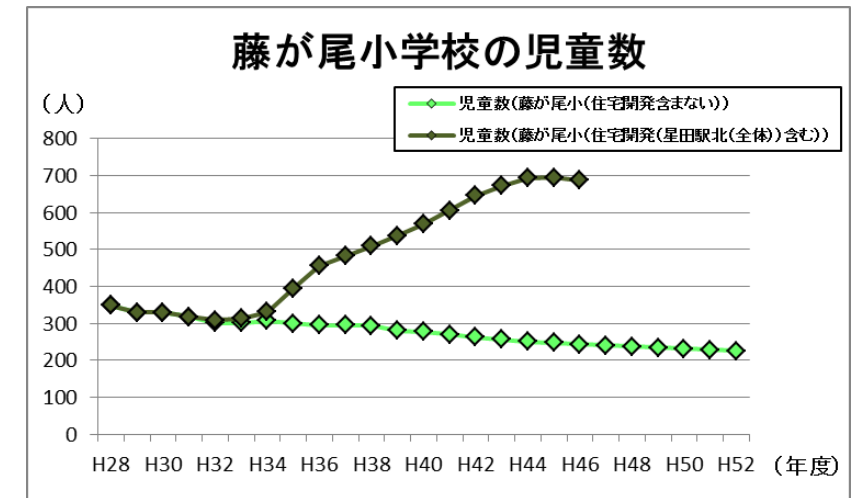


#### メリット

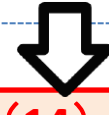
- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 中学校区をまったく校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- 将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る学校規模となるおそれがある。

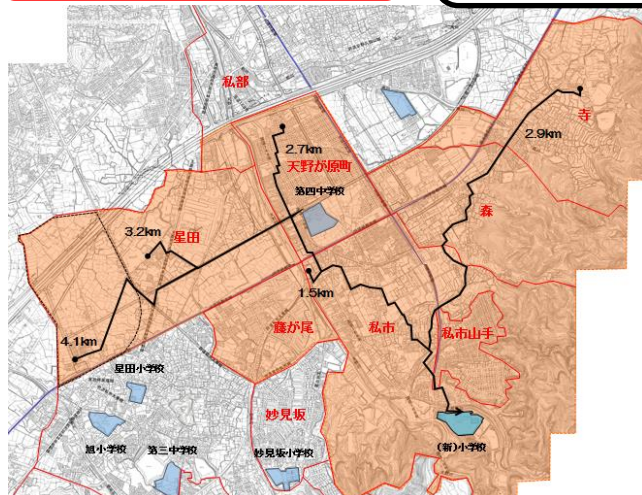


(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)



### 学校統合案(14)

岩小・藤小・私小を統合  
私小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

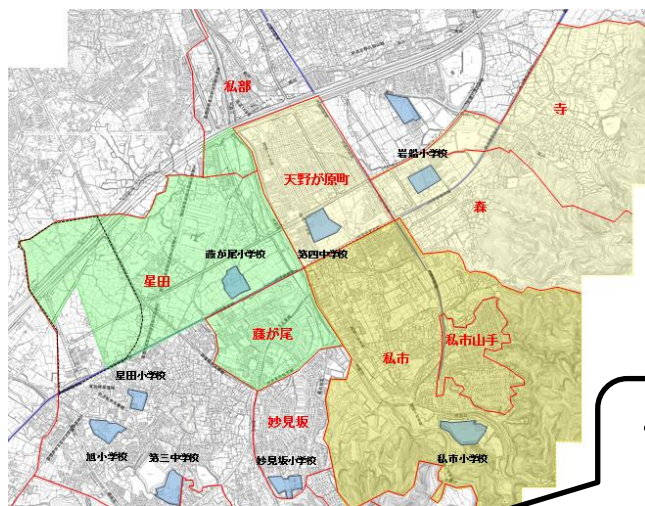
- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約4.1km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

(学校数 2) (私市小学校敷地面積：52,783㎡  
うち27,425㎡は実験実習地)

# 第四中学校区の適正配置案 (10)

## ◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区 (5)

現況校区図 (学校数 4)



星田北7丁目を除く星田駅北 (黒破線内緑色の区域) では、戸建住宅120戸、共同住宅190戸の合計**310戸**程度の住宅開発が予定されている。

- 星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- 藤が尾小学校の増床が必要

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

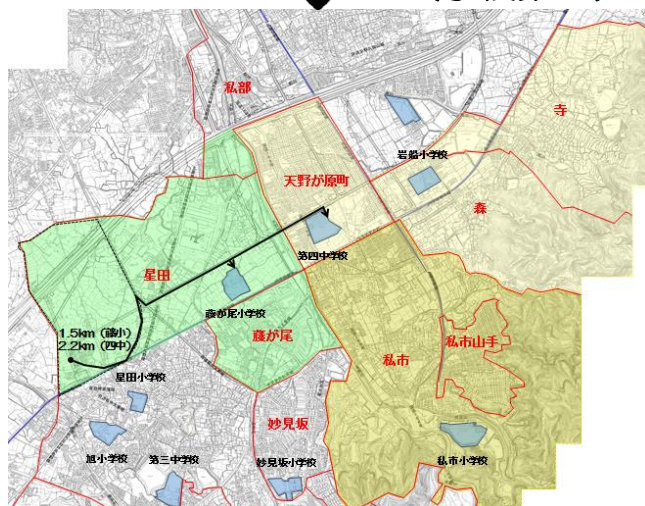
~~将来的に小規模化する見込みである~~

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

星田駅北の住宅開発の影響により、**小規模化の課題は解消する見込み**

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

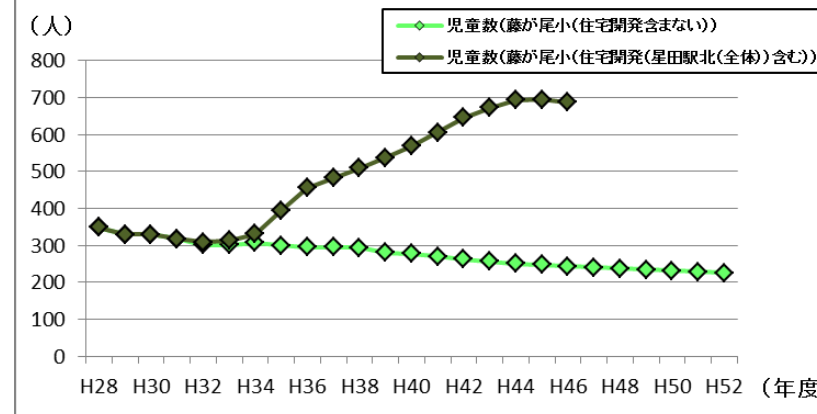
#### メリット

- 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

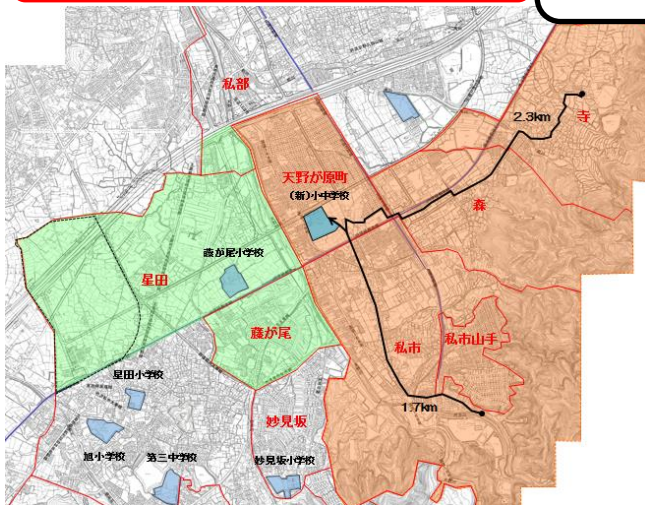
- 中学校区をまったく校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- 将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る学校規模となるおそれがある。

### 藤が尾小学校の児童数



### 小中学校統合案(3)

岩小・私小・四中を統合  
四中敷地に新しい小中学校を設置した場合



(学校数 2) (第四中学校敷地面積：20,472㎡)

#### メリット

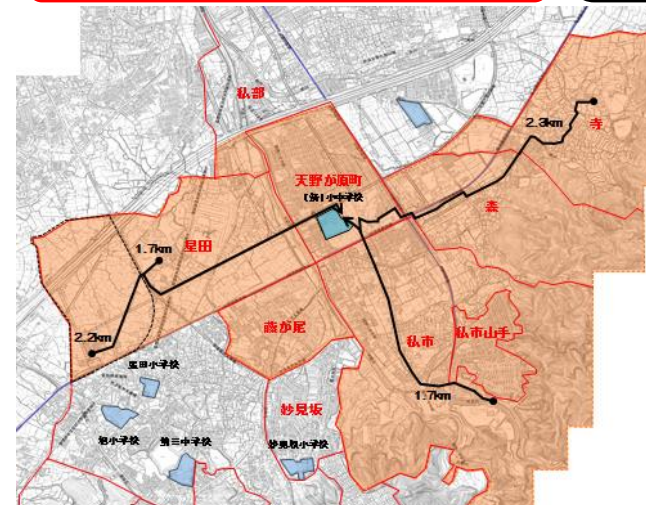
- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.3km)
- 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

### 小中学校統合案(4)

岩小・藤小・私小・四中を統合  
四中敷地に新しい小中学校を設置した場合



(学校数 1) (第四中学校敷地面積：20,472㎡)

#### メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

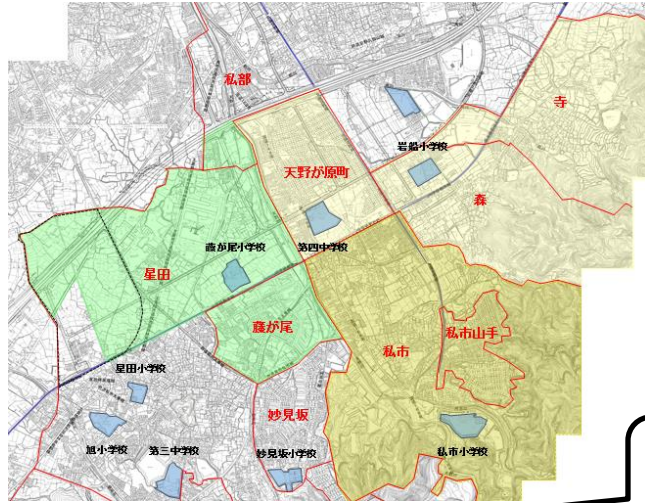
#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.3km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

# 第四中学校区の適正配置案（11）

## ◆ 星田駅北 ⇒ 第三中学校区（1）

現況校区図（学校数 4）



星田北6・8・9丁目を第三中学校区へ校区変更

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

（学校数 4）

### メリット

### デメリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化の課題が残る

### ～第四中学校区の課題の確認～

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

（藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡）

### 学校統合案(15)

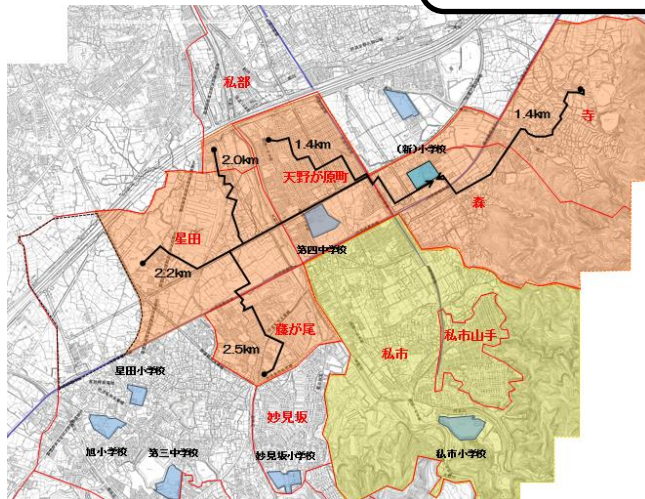
岩小・藤小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

### メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。  
・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.5km）



（学校数 3）（岩船小学校敷地面積：17,556㎡）

### 学校統合案(16)

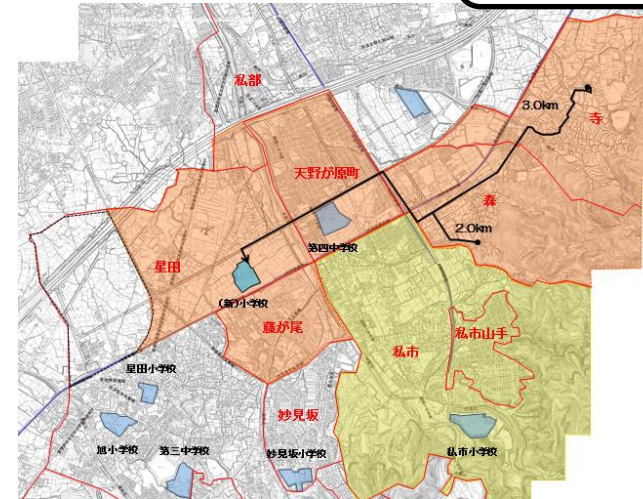
岩小・藤小を統合  
藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

### メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）

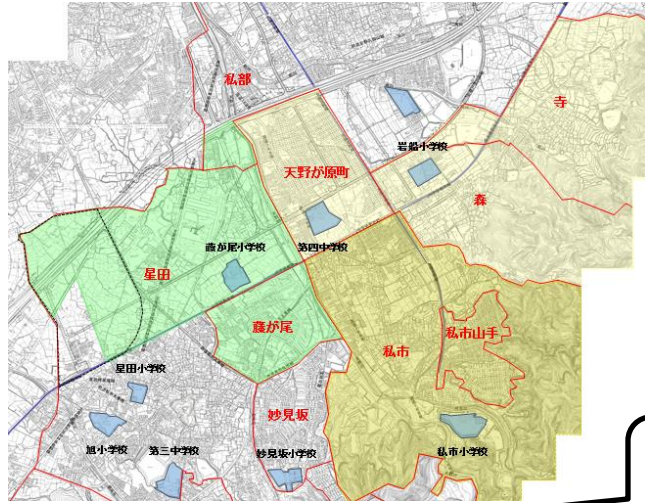


（学校数 3）（藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡）

# 第四中学校区の適正配置案 (12)

## ◆ 星田駅北 ⇒ 第三中学校区 (2)

現況校区図 (学校数 4)



星田北6・8・9丁目を第三中学校区へ校区変更

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

(学校数 4)

### メリット

### デメリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化の課題が残る

### ～第四中学校区の課題の確認～

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

### 学校統合案(17)

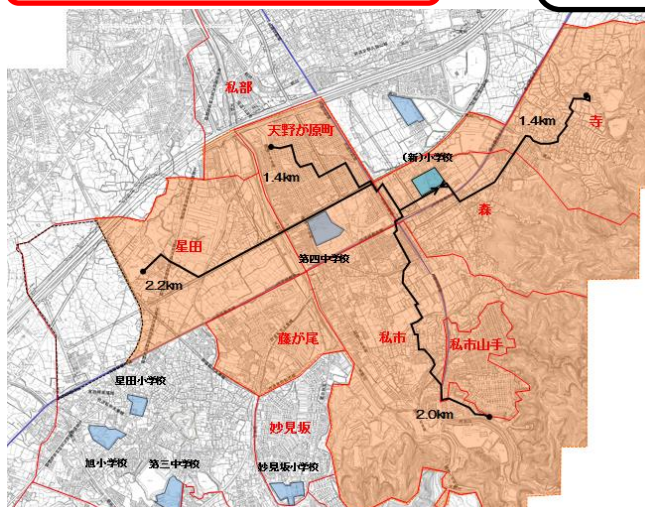
岩小・藤小・私小を統合  
岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

### メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

- ・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.2km)
- ・(新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。



(学校数 2) (岩船小学校敷地面積：17,556㎡)

### 学校統合案(18)

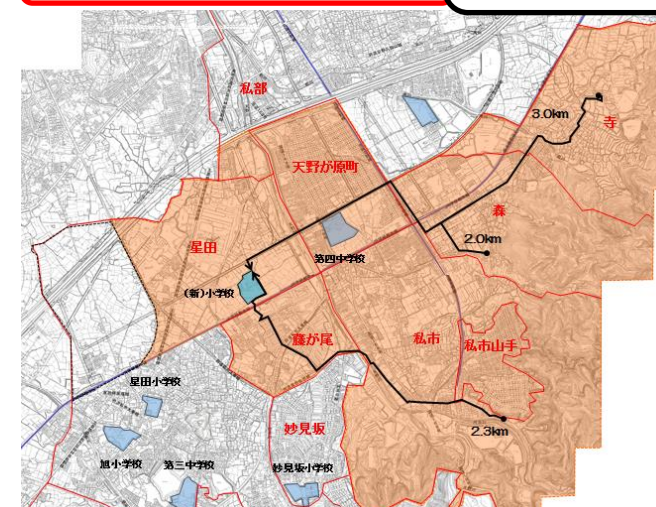
岩小・藤小・私小を統合  
藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

### メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.0km)
- ・(新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

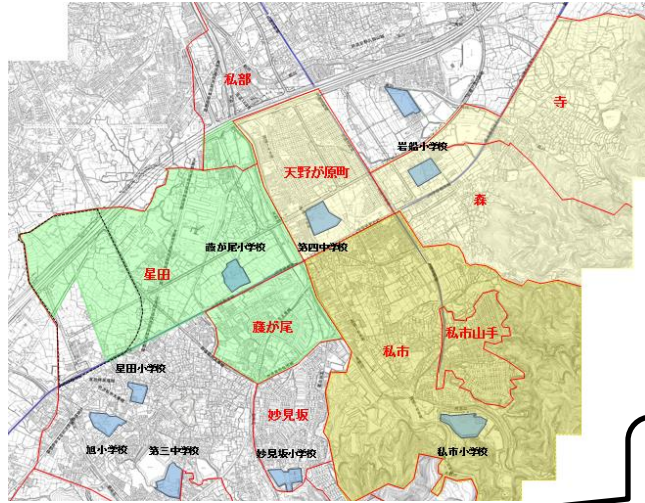


(学校数 2) (藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

# 第四中学校区の適正配置案 (13)

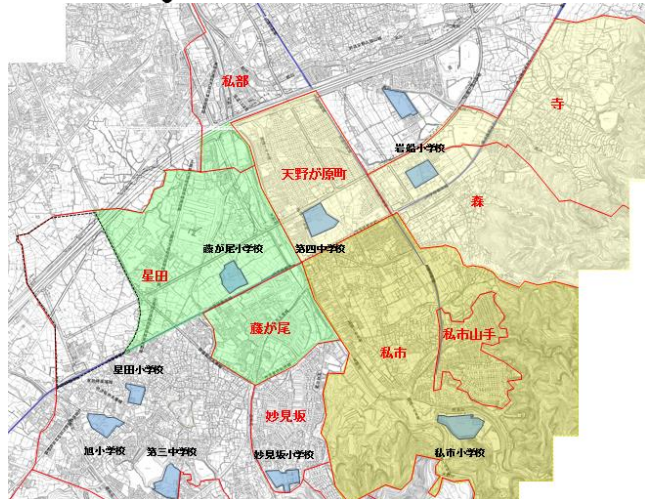
## ◆ 星田駅北 ⇒ 第三中学校区 (3)

現況校区図 (学校数 4)



星田北6・8・9丁目を第三中学校区へ校区変更

(学校数 4)



メリット

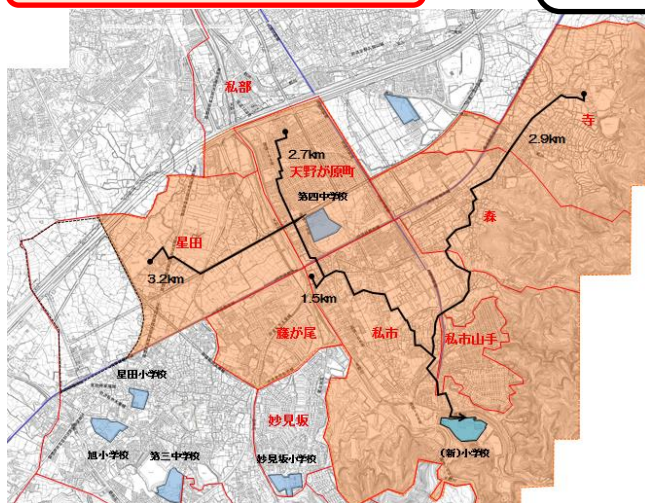
デメリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化の課題が残る

(藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡)

### 学校統合案(19)

岩小・藤小・私小を統合  
私小敷地に新しい小学校を設置した場合



(学校数 2) (私市小学校敷地面積：52,783㎡  
うち27,425㎡は実験実習地)

メリット

- ・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。
- ・私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約3.2km)
- ・(新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

### ～第四中学校区の課題の確認～

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 岩船小学校・藤が尾小学校

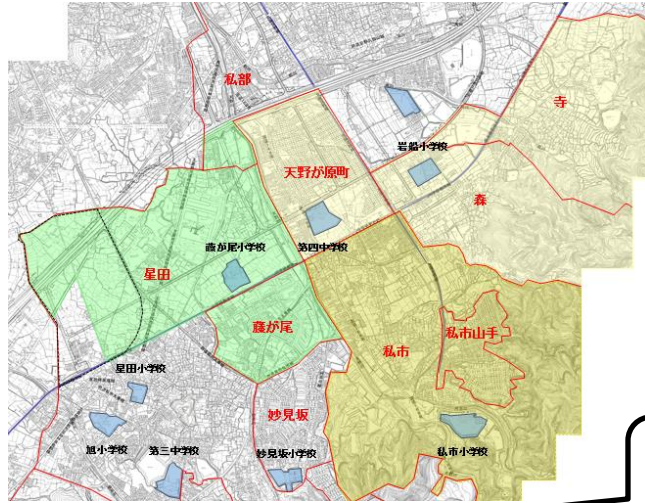
将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

# 第四中学校区の適正配置案（14）

## ◆ 星田駅北 ⇒ 第三中学校区（4）

現況校区図（学校数 4）



星田北6・8・9丁目を第三中学校区へ校区変更

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

#### 藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

（学校数 4）

### メリット

### デメリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化の課題が残る

### ～第四中学校区の課題の確認～

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。この場合、**藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残る。**

#### 岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

（藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡）

### 小中学校統合案(5)

岩小・藤小・四中を統合  
四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

### 小中学校統合案(6)

岩小・藤小・私小・四中を統合  
四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

### メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。

### デメリット

・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）  
・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある

### メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。  
・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

### デメリット

・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）  
・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

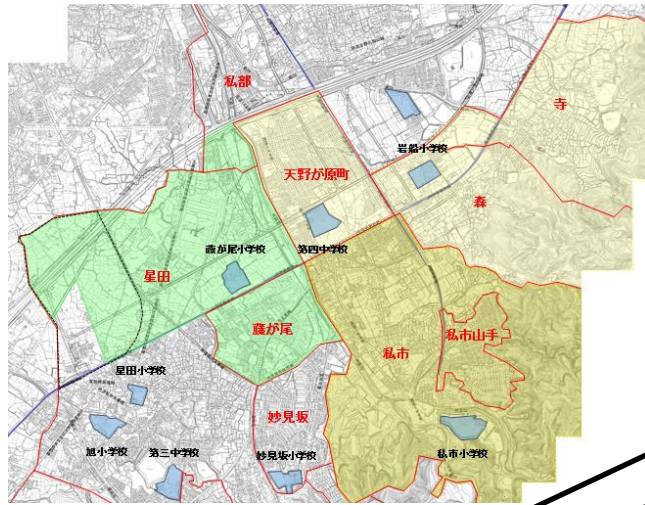
（学校数 3）（第四中学校敷地面積：20,472㎡）

（学校数 3）（藤が尾小学校敷地面積：20,444㎡）

# 第四中学校区の適正配置案 (15)

## ◆ 星田駅北 ⇒ 新しい小中学校区とする場合

現況校区図 (学校数 4)



星田駅北を新しいコミュニティとし、  
現藤が尾小学校区と合わせて、  
新しい小中学校区として、  
施設一体型の小中一貫教育実践校を設置する場合

### ～第四中学校区の課題～

#### 岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

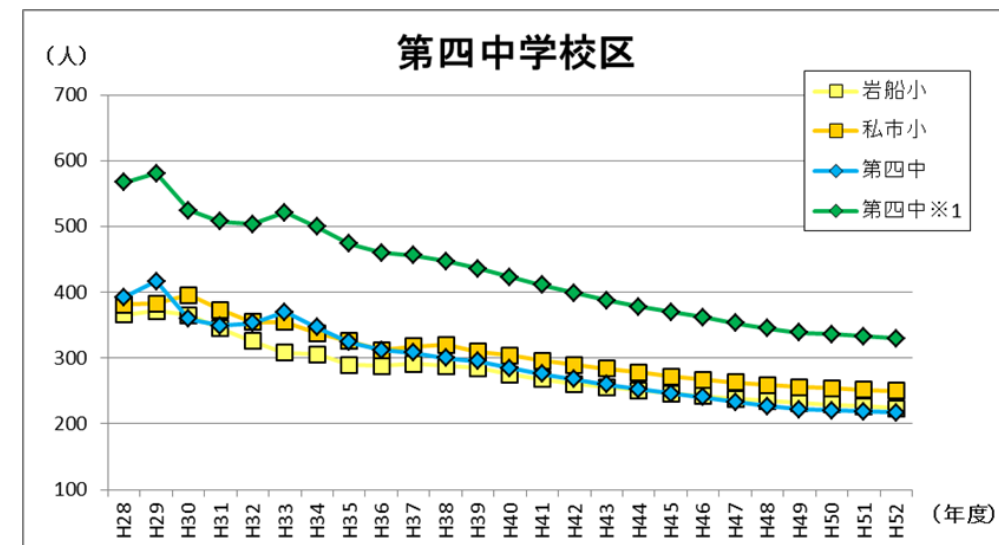
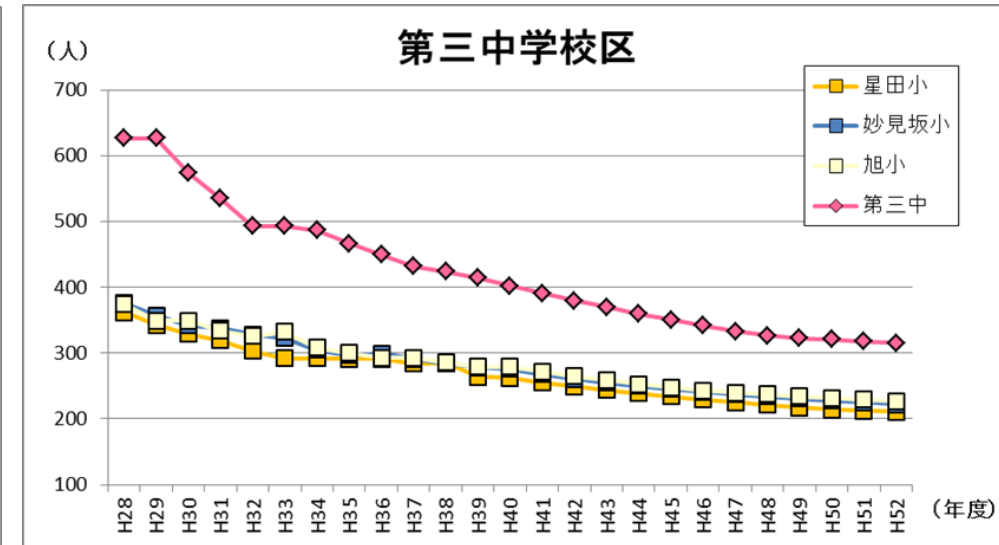
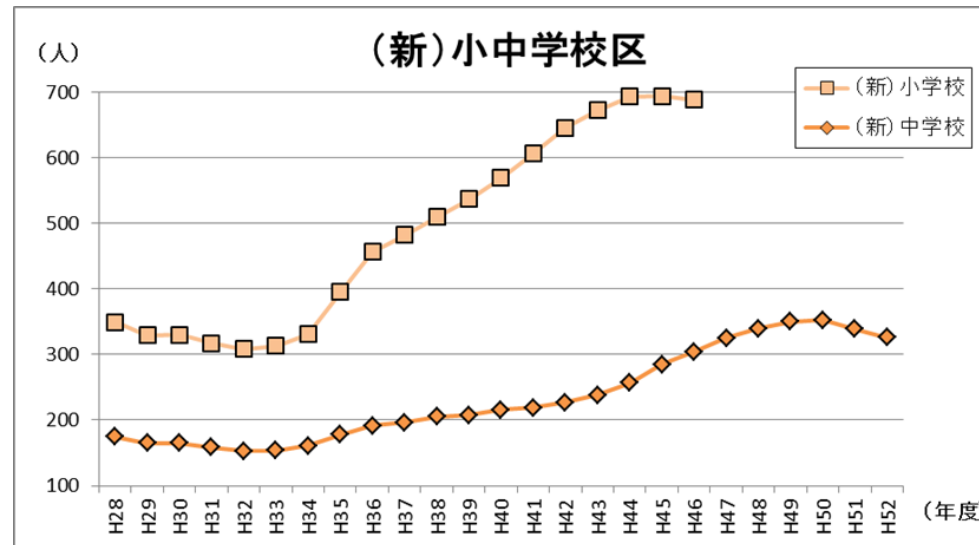
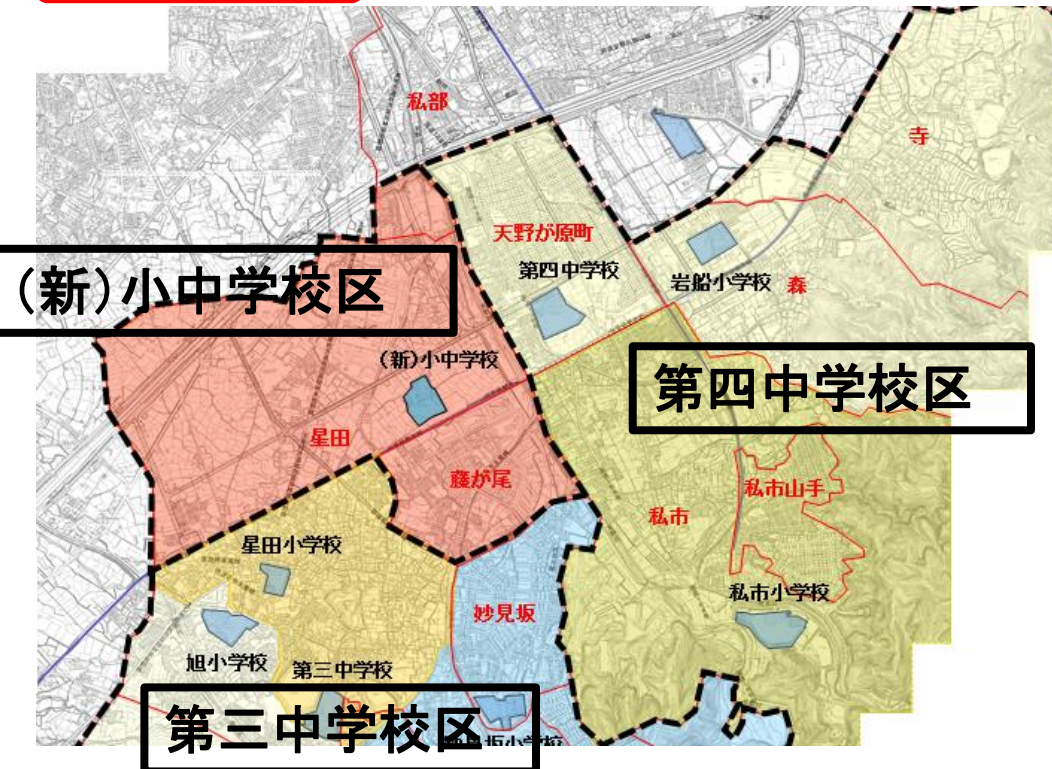
#### 藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※私市小学校については、推計上H52年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、**将来的に児童生徒数は300人を下回るなど小規模化する可能性は考えられる。**

※学校施設については、岩船小学校で築後45年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

### 校区変更案



### メリット

- ・ (新) 小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

### デメリット

- ・ 将来的な岩船小学校の小規模化の課題が残る
- ・ 将来的に第四中学校が小規模化する見込みである。

第四中※1 : 藤が尾小学校が第四中学校区であった場合の生徒数 (ただし、星田駅北の生徒は含まない)。